

平成二十四年第六回人吉市議会定例会の初めに当たりまして、市政に対する所信を申し述べる機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

今年には本市が誇る西洋歯科医学の先駆者、一井正典氏の生誕百五十年を数える年でございました。この記念すべき年に、氏がアメリカでの生活を送ったロスガトス、サンノゼ、サンフランシスコの地を訪問する機会を与えていただいたことに、議員各位を始め市民の皆様から感謝申し上げます。当時、まだ情報も少なく、言語も文化も違う異国の地において、苦学の末フイラデルフィア・デンタルカレッジを首席で卒業し、天皇家の侍医まで務められた氏のアメリカでの足跡の一部に触れ、本市の未来を担う青少年にもできるだけ若いうちに海外を経験させることで、志を持つ機会と環境を整えたいと再認識した次第でございます。これは語学の習得のみならず、この情報化が進んだ現代においても実際に現地を体験することで、想像以上の異文化や、成長の過程に不可欠な、いい意味でのカルチャーショックを実感できると確信したものでございます。

ロスガトス、サンノゼ周辺はシリコンバレーと称され、ヒューレットパッカー、インテル、ヤフーなど世界に名だたる企業が集積しておりますが、なぜここにあれだけの企業が集積したのか今回の訪問でよく理解できたところでございます。それはスタンフォード大学やサンノゼ州立大学を始めとする最高の学府があり、卒業生を受け入れる企業、それらの企業から独立して新たに会社を興しやすい環境、さらには企業と大学の研究機関との連携など、一つの地域の中ですべてがリンクしているからでございました。また、成功した個人・企業から出身大学や自治体へ多額の寄付金や物品などの提供があると伺い、郷土愛や感謝の心の存在もこの地域のリンクに大きく寄与しているものと推測いたしました。

本市にはまだ研究機関がございませんが、人吉球磨の特性を生かした産業を見出せば、研究機関あつての企業誘致もかなうものと存じます。もちろん一朝一夕にできるものではないでございますので、企業誘致や研究機関の検討も同時進行させながら、いま取り組むべきところの新たな目標として、将来を担う人材の育成を掲げてまいりたいと考えております。一井氏を始めとする郷土の偉人を顕彰することで、青少年に夢と希望を抱かせ、第二、第三の一井氏を目指す若者に世界の最先端の地を経験させる機会を創出するため、今後、より具体的な検討を重ねてまいります。

続きまして、マニフェストにも掲げております組織機構の改革でございしますが、行政組織につきましては、第五次総合計画を実現するための効率的な組織づくりの一環として、部、課などの統合再編を行うものでございまして、平成二十五年四月一日の実施を計画しているところでございます。主な内容といたしましては、企画立案・政策調整機能の簡素化・効率化の観点から、いわゆる内部管理部門の整理統合を更に進め、市長公室と総務部の二部六課を統合再編して総務部一部五課とし、建設部につきましても、現行四課体制から三課体制に再編するものでございます。また、この度の改編を契機として、来年度以降も、行政委員会も含めた組織の再編につきまして鋭意検討してまいります。今後とも市民幸福向上の実現に向けて、自ら積極的に行政改革に取り組むことにより、「市民に感動していただく」行政経営の確立を目指してまいります。

庁舎建設関係でございますが、市議会における特別委員会の設置を踏まえまして、去る十月二十五日に副市長を委員長とする関連職員二十三人からなる「市庁舎移転建設研究委員会」を発足いたしました。これもマニフェストに掲げた取組の一つでございます。第一回目の同委員会におきましては、平成十九年三月までに慎重審議されましたこれまでの市庁舎移転建設に関する経過と、本館及び別館といった現市庁舎の現状につきまして再確認をしたところでございます。

庁舎建設問題につきましては、市を挙げて取り組むべき五十年に一度の大プロジェクトであり、クリアすべき課題は数多く存在しますが、市民の安全性と利便性を最大限に考慮した市庁舎建設の「基本構想」を一刻も早く策定するためにも、議会と執行部とが車の両輪となり、まずは、移転場所の選定に重点を置き議論を交わしてまいりたいと存じます。議員各位、さらには市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

熊本県南の地域振興関係でございますが、宇城及び天草地域も含めた県南地域の自治体が抱える共通する課題の解決に向けて、共同で取り組み、地域活性化を図ることを目的として、去る十一月十九日に、本市を含めた七市が地域のけん引役となり、かつ地域連携の要となるべく「県南・宇城・天草地域活性化協議会」の設立総会を本市で開催いたしました。総会当日は、国会議員を始め当該地域自治体の首長や各地域振興局長及び各市の議長にもご来賓としてご臨席いただき、県南地域を担当されている小野泰輔副知事に、当該地域の活性化及び浮揚策についての記念講演を賜ったところでございます。

今後、当協議会の目的の大きな柱である、「グローバル・広域観光の開発」「農産物等の海外輸出及びブランド化」「国内外へのアンテナショップ」、さらには「雇用の創出」といった四つの戦略を軸に様々な事業を展開してまいり所存でございます。本市といたしましても、本地域の浮揚のため、関係自治体とスクラムを組んで連携を図りながら、事業推進に向けて積極的に協力してまいりたいと存じます。

治水関係でございますが、去る十一月八日に第四回「ダムによらない治水を検討する場」の幹事会が、球磨地域振興局で開催されました。今回は、昭和四十年七月洪水の降雨を想定したうえで、これまで出された「遊水地」の新設、球磨川の掘削といった治水対策をすべて実施した場合の氾濫シミュレーションや、一年間に計画高水を超える洪水が発生する確率となる「年超過確率」が示されたところでございます。シミュレーションによりますと、中・下流域の八代市や芦北町、球磨村では家屋や農地への浸水をほぼ防げる計算に対して、上流域となる本市では、洪水リスクとして、床上浸水被害の可能性が残ると示されたところでございます。示されました想定結果を踏まえ、引き続き国、県、流域市町村と連携を取り、議論を重ねながら、住民の安全を担っている責任者として一層の治水安全度・地域防災力を向上させるため、国に、更にスピード感を持って推進していただくよう、熊本県とともに取り組んでまいり所存でございます。

防災関係でございますが、今年度整備を進めております防災行政無線につきましては、現在、市内六十四箇所を設置を計画しております屋外拡声子局の柱を建設中でございます。今後、スピーカーやアンテナ、無線機器類の取り付けを行うと同時に、親局及び中継局の

設置工事を本格的に始めることとしております。工事は順調に進んでおりますので、来年二月末には工事完了となる見込みでございます。

一方、ソフト対策でございますが、昨年来、災害時に互いの迅速な復旧作業や支援などが行えるよう、関係省庁や自治体、各種団体などと災害時相互応援協定の締結を鋭意進めているところでございまして、去る十月二日、新たに自衛隊熊本県隊友会と応援協定を締結させていただきました。この度の協定締結により、緊急時において自衛隊OBの方の協力が得られることになり、元自衛官としての豊富な知識や経験、リーダーシップが発揮され、より迅速に住民の避難や救護活動・復旧活動などの支援が受けられるようになるものと、たいへん心強く感じているところでございます。市といたしましては、今後も防災行政無線を始めとするハード面の整備に加え、災害時相互応援協定締結などのソフト面の充実も図りながら、市民の皆様が安心して暮らしていただける安全なまちづくりを目指して取り組んでまいりる所存でございます。

消防関係でございますが、長きにわたり本市消防団長としてご貢献賜りました川野惟精氏が、この秋の叙勲で、旭日小綬章を受章されました。四十三年余にわたる氏の消防活動は、まさに郷土愛護の精神に基づいたものであり、この度の受章は、団歴と、団長として手腕を発揮されたことに加えて、消防防災活動及び火災予防思想の普及等に献身的にご尽力なされたその功労と功績が高く評価されたものであると存じます。これで、堤治助氏、青木緑郎氏に続いて、本市消防団長三人目の受章となりました。ご本人の功績であることはいままでもありませんが、同時に本市及び本市消防団にとっても輝かしい名誉であると存じます。受章された川野惟精様並びにご家族、関係者の皆様方に心からお祝い申し上げます。次第でございます。

国土交通省観光庁の認可事業である「家族の時間づくりプロジェクト」でございますが、去る十月九日に市内全小・中学校を休業日とし、十月六日の土曜日から九日の火曜日までを四連休とする取組を実施いたしました。これまでおくんち祭りに参加できなかった子どもたちにも多数参加していただき、地域のつながりや伝統文化への理解を深める機会となったものと存じます。神幸行列が通る沿道にも、多くの家族連れが見られ、平日の開催にも関わらず祭りを大いに盛り上げていただいたほか、期間中に様々なイベントを実施しましたところ、合計で約四百人のご家族に参加していただきました。プロジェクト実施に当たり、ご理解とご協力を賜りました関係機関及び関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、プロジェクト終了後に、観光庁が学校、保護者及び事業所を対象にアンケートを実施しており、現在集計中でございますが、そのアンケートの結果を検証し、来年度実施に向けての参考にしてまいりたいと存じます。

福祉関係でございますが、「健康と福祉の祭典」として開催してまいりました、「みんなしあわせ★スマイルフェスタ」につきましては、これまでの開催形態を見直して「社会福祉のつどい」との一本化を図り、来年二月九日に、カルチャーパレス小ホールにおいて開催いたします。当日は、社会福祉功労者の表彰やボランティア活動報告などのほか、DOYO組やくまモン、テレビやラジオでおなじみのタレント、英太郎さんをゲストにお迎え

する計画でございまして、あらゆる世代の人々が、福祉を自分自身のこととして捉え、地域における支え合いの精神を育む契機となるよう、準備を進めてまいりたいと存じます。

高齢者支援関係でございしますが、市町村認知症施策総合推進事業の取組の一つといたしまして、去る十一月二十一日、二回目となる認知症高齢者徘徊模擬訓練を行いました。今回は、東間・田野校区の皆様にご協力いただいて、情報伝達と搜索に目標をおいて実施し、また、事前に認知症を理解していただくための研修会も開催しております。今回の模擬訓練を基に、徘徊など行方不明者が発生した場合の初動体制の検証を行い、万が一に備える体制の構築につなげるとともに、次年度以降におきましてもこの模擬訓練を、ほかの校区や地区に広げ、取り組んでまいる所存でございします。

農業関係でございしますが、去る十一月十日、十一日の両日、ふるさと歴史の広場において、第六十三回ひとよし産業祭が開催されました。あいにくの天候にもかかわらず、市内外から多くのお客様にご来場いただきました。今年のステージにおいては、地元出身の若いアーティストの方々を始め市民の皆様、人吉高校吹奏楽部や陸上自衛隊第八音楽隊の皆様には素晴らしい演奏、楽しい歌や踊りなどを披露していただきました。また、食・物産コーナーにおいても、地元食材を使った食べ物や加工品のほか、人吉球磨の物産や土産物などの販売をしていただきました。さらに、今年も恒例の北海道小樽物産と本市の友好都市でもございます静岡県牧之原市の物産販売や、東日本大震災復興支援といたしまして、福島県南相馬市の物産販売を人吉高校と球磨工業高校の生徒の皆さんに実施していただいたところでございます。実行委員会の皆様を始め、ご協力いただきました市民の皆様からお礼を申し上げます。

地産他商関係でございしますが、二回目となりました「人吉球磨の味めぐり in 東京都庁」が、去る十一月十四日から二十日までの七日間、東京都庁第一庁舎二階にあります全国観光PRコーナーにおいて開催されました。今年は、先に設立されました人吉ブランド化実行委員会の皆様を中心に地元農産物や物産品の販売、観光PRをしていただきましたが、期間中は多くの都民の皆様や観光客、中にはリピーターになっていただいたお客様の来場があり、昨年以上の成果が得られたようでございまして、更なる本市の知名度アップ及び商品の周知につながったものと存じます。

観光関係でございしますが、今年も十月十日から、「人吉球磨は、銭湯開始」と銘打った温泉PRキャンペーンを開催しております。昨年に引き続き、人吉球磨にある多くの温泉を楽しんでいただけるように、趣旨に賛同された四十二箇所の温泉施設の協力の下、「泉極SAGARA温泉巡りモバイルラリー熱湯伝」を来年五月二十日までの期間で実施してまいります。このイベントは、携帯電話やスマートフォンを使って、利用した温泉の数でポイントが上がるゲーム仕立てにした企画でございまして、若い世代を始め多くの方々に人吉球磨の温泉を体験していただきたいと存じます。このキャンペーンでは利用した温泉のコメントや、温泉施設ランキングなども見ることができ、今年のラリー参加者も増加中でございます。このような人吉球磨の観光素材を利用した観光宣伝を、今後も更に進めてまいる所存でございします。

秋のじゅぐりつと博覧会でございますが、九月十六日から始まりました博覧会も十一月二十五日をもって、盛況のうちに終えることができました。期間中、じゅぐりつと博覧会実行委員会主催によります恒例の落語やマジックショーなどの街なかイベントを始め、カルチャーパレスで開催しましたバンドグループによるポップフェス、出水中央高校吹奏楽部演奏会、人吉城跡での野外コンサートなどの音楽イベントのほか、好評を博している灯りのイベント、SL人吉のお迎え・お見送りおもてなし事業などを実施しております。

また、じゅぐりつと博覧会の街なかイベントの一環として、去る十月十四日に商店街一帯において合同開催いたしました、「がんばろう城下町・第二回人吉ふれあい百円商店街」と「とっておきの音楽祭」には、多くの家族連れのほか観光客の皆様にもご来場いただきました。全国で百を超える市町村で百円商店街が導入されておりますが、きじ馬スタンプ協同組合を事務局とする実行委員会では、山形県から同事業の発案者である齋藤一成氏を講師に招き、商店街と地域住民の皆様がそのノウハウを学び、活気あるまちづくりが進められております。既に今回の結果を踏まえ、来年二月十六日には第三回の開催が予定されており、本市におきましても地域と一体となって連携を図りながら、空き店舗活用を始め商店街のにぎわい創出を推進してまいりたいと存じます。

各種イベントにご尽力いただきました実行委員の皆様方に対し、心から厚くお礼申し上げます。各種イベントにまい進してまいりたいと存じます。

また、期間中の十一月三日、四日の土日には第二十五回石野公園まつり及び南九州クラフト展を同時に開催いたしました。子ども連れのご家族を始め地域内外の多くの来園者に秋のクラフトパークをご堪能いただけたものと存じます。

去る十月十二日から十四日まで名古屋で開催されました二〇一二国際航空宇宙展でございますが、本市が所有するハンスグラデー機の模型がメイン会場の一つであるポートメッセ名古屋の主催者ブース中央に設置され、併せて本市の偉人日野熊蔵翁の偉業を全世界に向かって発信していただきました。また、中部国際空港内のイベント会場では、航空自衛隊や航空大学の紹介コーナーや航空会社のオフィシャルショップとともに、本市の観光ブースを設置していただきましたので、国を挙げた祭典の中で、本市観光をPRすることができたものと存じます。

住宅リフォーム促進事業でございますが、個人所有の既存住宅の機能維持、居住環境の整備及び性能向上を図るため、改修される場合に本市が費用の一部を助成してまいります。十月末までに予算額に達し終了したところでございます。今後、実施効果を検証し、市民の皆様が安全・安心で快適な生活ができますよう、住環境の「質」の向上を図る建築行政を進めてまいりたいと存じます。

学校教育関係でございますが、九月市議会施政方針におきましても触れましたように、いじめは人間として許されないことであり、ましてやいじめが原因とみられる自殺は、決してあってはならないことだと存じます。これまで、学校現場では未然防止やいじめの早

期発見・早期対応に最大限の努力をされており、本市といたしましても、人吉っ子アドバイザーの相談窓口の拡充を図り、いじめ問題を始め子どもの深刻な悩みに対する相談活動の充実を図ってきたところでございます。

今回はこれらに加え、いじめ防止に向けた支援体制の構築を検討した結果、各小・中学校に校長先生を始め教職員、保護者代表、校区の方々などを構成委員とした「学校いじめ対策委員会」を早急に設置することにいたしました。また、人吉市教育委員会内に、人吉っ子アドバイザー、家庭児童相談員、保健師などを構成員とした、「いじめ対策サポートチーム」を編成し、球磨教育事務所や人吉警察署、人吉人権擁護委員協議会等とともに、いじめの早期対応・早期解決を行い、いじめを絶対に許さない学校づくりを行ってまいりますのでございます。

社会教育関係でございますが、十月一日から受講生を募集してまいりました「ひとよし花まる学園大学」は、下は十歳から上は八十八歳まで、人吉球磨に限らず熊本市、近隣の伊佐市、霧島市から二百人を超える申込みがあり、一部の講座につきましては抽選を行うほどでございます。去る十月二十七日には、百七十五人の方々を受講生として迎え、開講式を開催いたしました。これまで、「歴史学」、「肥薩線」、「まちづくり・ひとづくり」など五つの講座がそれぞれ三回実施されましたが、いずれの教室も受講生の皆さんの熱い学びの意欲があふれておりました。

また、この「ひとよし花まる学園大学」では、人吉球磨の高校生を対象とした「十代末来塾」と題した出前講座も計画しており、これまで、南稜高校、人吉高校五木分校、球磨商業高校、多良木高校で実施し、今後すべての高校でも実施することにしております。この「ひとよし花まる学園大学」の事業は、本市、熊本学園大学、中小企業大学校人吉校の三者が連携・協力して実施しておりますが、それぞれの持ち味、特性を発揮しながら、今後とも、多彩なジャンルの学習の場を提供し、生涯にわたる学びの意欲に応えらるるとともに、地域への愛着と理解を深め、地域の活力となる人材育成につなげてまいりたいと存じます。

歴史遺産関係でございますが、このほど「温泉観光地人吉」の歴史を証明していた和風旅館の人吉旅館と芳野旅館の二件が国登録有形文化財となることに決定いたしました。この決定を記念しまして、十月十四日には両旅館の主催、本市が共催の形で講演会と見学会を開催したところ、市内外から八十人の参加者があり、観光面での大きな期待とともに、今後のまちづくりの弾みになるものと改めて感じたところでございます。今後も行政と民間が一体となって歴史遺産の保存と活用を図りながら、「美しき相良七百年の歴史文化都市ひとよし」の実現に向けてまい進してまいります。

文化振興関係でございますが、第五十九回人吉球磨総合美展を始め、第六十六回犬童球溪頭彰音楽祭、第三十九回人吉文化祭など、今年も芸術・文化の秋にふさわしい各種行事を盛大に開催することができました。

犬童球溪頭彰音楽祭では、「音楽の夕べ」におきまして、昨年同様、地元合唱四団体のご協力により「犬童球溪合唱団」が結成され、日本の童謡、歌唱などに表現されている山・川・海、動植物、故郷などをテーマに、日本の情景を披露していただきました。また、童

謡界の第一人者であります大庭照子さんとD O Y O組をお招きし、お孫さんからおじいやんおばあちゃんまで皆様にお楽しみいただきながら、家族の温かい絆を感じるひと時をお過ごしただけのものと存じます。

そのほかにも自主文化事業として、去る九月三十日に「第四回おどんな日本一・ひとよしのど自慢大会」を開催し、二十組の皆さんに自慢ののどを披露していただきました。昨年同様、ゲスト出演、景品抽選会などを行い、ご来場の皆様には大変喜んでいただいたところでございます。

上水道関係でございますが、地元住民の代表者及び住民の皆様から編入を強く、熱心に要望されておりました上戸越地区上水道拡張事業は、本年度起債事業として取り組んでまいりましたが、十一月末で配水管布設工事が完了する計画でございます。今後は、待ち望んでおられた安心で安全なおいしい人吉の水をご使用いただけるものと存じます。

次に、平成二十五年度予算編成に向け、その方針を定めましてのご報告申し上げます。国は、平成二十五年度予算の概算要求組替え基準において、平成二十五年度予算は、社会保障費の自然増などが見込まれる中、「財政運営戦略」に基づく「歳出の大枠」（平成二十四年度と同額の約七十一兆円）を遵守するとされています。一方、地方財政の一般財源総額についても、実質的に平成二十四年度の水準を下回らないよう確保するとしているものの、日本経済がまだまだ低迷する中、その先行きは依然として予断を許さない状況にあるところでございます。

本市の財政状況につきましては、経常収支比率が九十八・八%と依然として高く、財政の硬直化は改善していない状況にあり、税収においては生産年齢人口の減少に伴う減収が見込まれ、今後自主財源の確保はますます厳しい状況になってまいります。しかしながら、このような厳しい財政状況の中でも、社会環境の変化と多様化する行政需要に的確に対応し、また、活気に満ち、活力あふれる市民生活を実現するためにも更なる行財政改革に取り組むことで財源の確保に努めなければなりません。

このため、平成二十五年度予算におきましては、国の動向を注視しながら予算編成作業を進めるとともに、既存事業について、その必要性・優先度の観点から抜本的な見直しを行うことで財源確保に努めることとし、財源の有効的な配分により「最小の経費で最大の効果」をあげるよう予算編成方針を定めたくところでございます。市民の皆様方を始め議員各位におかれましても、この趣旨をご理解いただき、今後の改革改善に特段のご協力、ご協賛を賜りますようお願い申し上げます。